とちぎコープ生活協同組合 機関誌

おしゃべり・かわら版

2020年
5月号
発行日／2020年5月4日
Vol.218

おしえて！おしえて！

電子レンジのにおいを取る方法

電子レンジに付いた焦げたにおいが取れません。よい方法をおしえてください。

（壬生センター アーリオさん）

プラスチック容器の再利用法

トマトやヨーグルト等の、コープで回収されていないプラスチック容器はきれいで丈夫なので、再利用法が知りたいです。

（西那須野センター 組合員さん）

常備野菜でできる料理

じゃがいもや人参、玉ねぎ等、常備野菜を使った簡単レシピをおしえてください。

（宇都宮センター 組合員さん）

モロッコいんげんを使った料理

モロッコいんげんをたくさんいただきましたが、料理のレパートリーが少なく飽きてしまいました。何かよいレシピをおしえてください。

（宇都宮センター 組合員さん）

モロを使ったレシピ

モロ（モウカザメ）を使ったいろいろな料理法が知りたいです。目先の変わったレシピをおしえてください。

（壬生センター 組合員さん）

おしえてあげちゃいます！

上履きを白くする方法（2020年3月号に掲載）

40℃位のぬるま湯に洗濯洗剤（粉でも液体でも大丈夫です）を溶かします。そこに上履きを30分浸けてから洗うと楽にきれいになります。ポイントは「ぬるま湯」と「30分」です。時々漂白剤を入れるとさらに白くなりますよ。特に上履き用の洗剤を使わなくても、家にある洗剤で十分きれいになります。

（足利センター じゅんじゅんさん）

上履きを白くするには、浸け置き洗いが一番です。バケツに洗濯洗剤と衣料用の漂白剤か台所用の漂白剤を入れ、お風呂の残り湯等で薄めます。その中に上履きを入れて半日か一晩浸けてから、そのバケツの中でブラシを使って洗ってみてください。真っ白とまではいかなくても、結構汚れは落ちます。上履きの中もきれいになります。よくすすいだ後で、少し脱水をすると乾くのが速いです。

（日光センター 組合員さん）

靴専用の洗剤と使い古しのハブラシで上履きを洗います。水でよくすすぎ、タオルで水分を取り、生乾きのうちに白いチョークを全体に伸ばします。完全に乾いたらブラシで余分な粉を落とします。この方法は私の母に小学生の頃、おしえてもらったやり方です。白くなりびっくりしますよ。お試しください。

（芳賀センター M.Kさん）

冷え性対策（2020年3月号に掲載）

手の爪の生え際や指のまた等のツボを1ヶ所10回位押すと指先までポカポカしてきます。足も指のまたを1ヶ所10回位押します。片方の足の裏で一方の足の甲をぐりぐりします。時間のある時はゴルフボールで刺激します。

（芳賀センター K.Fさん）

手荒れを防ぐ方法（2020年3月号に掲載）

時間がある時や、テレビを観ている間はハンドクリームを塗り、ポリ手袋をしています。寝る時は木綿の手袋をする時もあります。朝なぜか取れてしまっていますが。

（日光センター しゅうくんママさん）

フリーズドライスープの使いみち（2020年3月号に掲載）

うちでは、卵スープ1つに分量より多めのお湯とカットわかめ、コンソメ顆粒を足しています。分量も適当に増えて、得した感があります。

（日光センター しゅうくんママさん）

大豆粉を使ったレシピ（2020年3月号に掲載）

大豆粉は、おからパウダーと違って水分と混ぜると粘り気が出るので、パウンドケーキやマフィン、お好み焼き等に使えます。私はパウンドケーキを作る時に、大豆の味が少し気になるので、チョコレートを混ぜています。クレープも薄力粉で作るよりも破れにくくなりますよ。

（宇都宮センター いそふらボンボンさん）

壁についたカビ対策（2020年2月号に掲載）

洗い流せない所等のカビ取りにおすすめなのが、コープのカタログに載っていた「乳酸カビトリーナー」（azuma）です。カビにスプレーして少し待つとスーッと消えていきます。塩素不使用、低刺激でツンとせず少し酸っぱいにおいがしますが、それほど気になりません。

（足利センター 組合員さん）

『機関誌おしゃべり・かわら版』のバックナンバーは、とちぎコープのホームページでご確認いただくことができます。現在は2019年1月号～2020年4月号まで掲載しております。

新型コロナウイルス感染症の影響による機関誌おしゃべり・かわら版の休刊について

新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、罹患された方々にお見舞い申し上げます。また、ウイルスと間近に戦ってくださっている医療従事者の方々には心から敬意を表するとともに、生活を継続する上で欠かせないお仕事をしてくださっている皆様にも感謝いたします。

このたびの新型コロナウイルス感染拡大及び政府より出された緊急事態宣言を受けて、機関誌おしゃべり・かわら版の編集、製作にも影響が及んでおります。これ以降しばらくは、通常どおりの発行を維持できないため、当面、休刊をさせていただきます。

組合員の皆さまにおかれましては、ご迷惑をおかけして誠に申し訳ございません。今後の状況を注視しつつ、少しでも早く安全に、機関誌おしゃべり・かわら版をお届けできるように取り組んでまいりますので、ご理解をいただけますようお願い申し上げます。

2020年5月4日
機関誌おしゃべり・かわら版　編集委員会

2020年度とちぎコープが助成を行う、県内のNPO法人をご紹介します

とちぎコープは毎年栃木県内で活動しているNPO法人への活動助成を行っています。2019年度も「とちぎコープNPO法人助成金規則」にもとづき、有識者5名からなる審査委員会が慎重に審査を行い、2020年度に助成を行うNPO法人41団体を決定しました。各団体の活動内容をご紹介します。

つなぎ（那須町 2018年10月設立）

高齢者、障がい者に対し行政と福祉サービスでは補えない様々な不便や困りごとを解決するため、正会員の持つ経験・技術・資格を生かして、庭木剪定、草刈り、送迎、出張理美容サービス等、地域に根ざしたお助け隊として活動しています。今後は高齢者の生前整理、葬儀、供養等、終活に関するニーズが増えると考えられます。高額な費用がかかると諦めていたサービスを低料金で提供し、利用者が笑顔で生活できることを目指しています。

子育てほっとねっと（那須塩原市 2012年2月設立）

地域において地域の人の手による子育て支援と子育てネットワークづくりを行い、世代を越えた交流を通し、子育て中の家族が安心して生活できる地域づくりを目指しています。「自分たちが必要だと思うことを自分たちの手で」という思いから、市の委託を受けファミリーサポートセンター、親子つどいの広場の運営を担っている他、自主事業として、月2回の子ども食堂の開催や家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」等を行っています。

和音（日光市 2004年5月設立）

子どもが安心して過ごせる放課後児童クラブの運営を行っています。子ども一人ひとりの発達段階に応じた育成支援を、支援員全員が専門職としての意識を持ち日々取り組んでいます。また、様々な体験や地域とのふれあいを通し、子ども達が健全に、心豊かに育つ環境づくりを進めています。

さくら（日光市 2004年11月設立）

高齢者や自力で調理のできない方に、カロリーや塩分を控える等、健康に配慮した食事を年間を通してお届けしています。ひとり暮らしの高齢者・老々介護宅の見守りを兼ね、食を通して地域の方が健康で明るく楽しく暮らしていけるよう年中無休で活動しています。

だいじょうぶ（日光市 2005年8月設立）

虐待や貧困、親の病気等で、家で安心して暮らせない子どもがいます。その子どもと家族に相談対応を通して寄り添い、家事や育児、生活支援等必要な支援を行っています。市内2か所で運営する母子の居場所「ひだまり」では、放課後子ども達を学校へ迎えに行き、家庭的な養育を提供しています。認可外保育施設「ひだまりキッズ」では、支援が必要な乳幼児を日中預かり、保育を行っています。また、高校生の居場所「のんびりcafé」の運営や不登校気味になっている中高生を対象とした「通学型チャレンジ合宿」を行ったり、虐待してしまう親の回復プログラムとして「MY TREEペアレンツ・プログラム」を実施しています。

より道（日光市 2008年2月設立）

障がい者とその家族への福祉サービスとして、食事や清掃等の家事支援、入浴や排泄等の介護支援を行う他、日中活動として生産活動や創作活動に取り組んでおります。またこれらの支援を併設した居住支援として、グループホームの運営を行っております。地域に溶け込んだ事業（地域ふれあい事業）を通して地域の中でいろいろな人と交わりながら暮らせるよう支援しています。

風車（矢板市 2017年8月設立）

不登校や引きこもりで悩む子どもとその家族のための居場所「風の家」を週1回運営しています。みんなで一緒に食事を作り一緒に食べることで家族のような絆が生まれ、同じ悩みを聞いたり話したりすることで勇気と元気を持つことができ、一人で悩まず前向きになることができます。また不登校等で勉強に不安を抱えている子どものために、学習支援も行っています。市内外にかかわらず、気軽に参加できる場を目指しています。

もうひとつの美術館（那珂川町 2001年10月設立）

明治大正時代の面影を残した木造の旧校舎を再利用して、主にハンディキャップのある人の創る作品を展示紹介している美術館です。展覧会ごとのテーマに沿い、既成の枠にとらわれない自由な発想から生まれた作品の魅力を紹介します「みんながアーティスト、すべてはアート」をコンセプトに、年齢・国籍・障がいの有無や専門家であるなしに関わらず、アートを介して障がいとは何かを考え、共生社会の実現へつながるきっかけを創造していきます。

大山田ノンフェール・くらねぇ（那珂川町 2010年4月設立）

2018年に開設した「かわせみ珈琲店」やガラス工房、野菜栽培、陶芸等の様々な活動を通して、病気や障がいがある人も、そうでない人も共に集まる交流の場作りや、精神障がい、ひきこもり、DV等の相談や支援を行なっています。今年度は高齢者交流のためのサロンを開設し、地域に暮らす住民同士が緩やかに見守り合う地域づくりを目指します。

古賀志山を守ろう会（宇都宮市 2014年7月設立）

健康管理の山として老若男女が安全に登山をしてもらえるように、道標・倒木伐採除去、階段設置、不法投棄物の除去等の環境整備活動、緊急連絡時現在地番号の付設・滑落防止の補助用ステップの保全活動、ホームページにて古賀志山地の情報を掲載・会報誌・活動記録公開等の啓発活動を行っています。

チャレンジド・コミュニティ（宇都宮市 2007年3月設立）

様々なハンディキャップを持つ人とその家族が、地域社会で安心して生活できるよう、“自立”“参加”“協働”をキーワードに、発達支援・就労支援活動を行っています。主な活動内容として、ハンディキャップがある方の職業訓練や就労支援、絵画教室やパソコン教室等の子どもの発達支援、ハンディキャップがある子どもの保護者や関係者のための勉強会、公共交通機関を使用することが困難な方の移動支援等を行う障がい者福祉サービス事業等があります。

マロニエハウス会（宇都宮市 2004年3月設立）

施設は栃木県立野沢養護学校（現のざわ特別支援学校）に在籍する生徒の保護者有志が中心となり「どんなに障がいが重くても一人の青年として輝く日々を送らせたい」という願いのもとに、学校卒業後の受け皿として開所しました。障がい児・者の療育、介護はその家族だけでなく、地域住民の支え合い、助け合いによるものという考えのもと、地域に開かれた事業を展開しています。デイケア事業では、市役所と連携を図りながらサービスニーズの把握に努め、医療的ケアの必要な利用者が毎年増えていることを鑑み「宇都宮市重症児医療的ケア支援事業」を実施しています。

青少年の自立を支える会（宇都宮市 1999年10月設立）

虐待やその他さまざまな理由で家庭を失い児童養護施設等で育った子ども達が、施設を出てから社会的に自立していけるように支援を行なっている「星の家」運営の経験から、高校進学及び卒業のための支援の必要性を感じ、養育者が共に暮らしながら見守る、ファミリーホーム「はなの家」を開設しました。さらに、子どもの居場所「月の家」は、地域にあるもう一つの家として、子どもたちが放課後から自宅に帰るまでの時間を過ごします。また、星の家で関わってきた子ども達も親となり、星の家の実家としての役割が大切になっています。親子の力になれる様、活動しています。

自立生活センターとちぎ（宇都宮市 2011年6月設立）

障がい児・者の方への相談事業を中心に、福祉サービスの計画・調整、ヘルパー養成講座、障がい理解の啓発活動、大学生の実習生受け入れ、学習会を開催しています。また、年3回の機関誌を発行し、バーベキュー大会、クリスマス会を通して、障がいのある方が集える場を提供しています。令和元年8月から「多機能型事業所はーと」（生活介護、就労継続支援B型）を開所しました。就労支援としてフードバンク宇都宮の仕分け作業を障がい者ができるように準備しております。

筋痛性脳脊髄炎の会（通称ME/CFSの会）（宇都宮市 2012年6月設立）

筋痛性脳脊髄炎の患者が、医療関係者や周囲の方から病気の正しい理解を得られるよう海外の最新情報をお届けしています。患者が必要な医療ケアや福祉サービスを受けられるように医療制度や社会保障制度の確立を目指しています。日本の患者の実態や患者のおかれている現状を描いたドキュメンタリー映画や国会請願を通して、患者を取り巻く環境の改善につなげることを目的に活動しています。

宇都宮国際障がい者乗馬協会（宇都宮市 2006年8月設立）

一般企業への就職が困難な障がいをお持ちの方に、一般就労を目標として、個々に合った支援をしています。馬作業や農作業、革細工を主としてその方にあった作業を提供し、様々な技能の取得や多様な刺激を受ける機会をつくっています。施設外就労も積極的に行い、一般企業への就労に結びつけていきます。また、入居者同士が協力し合って暮らす住宅「グループホームファミリア」を運営し、自立した日常生活をおくるための支援をしています。

ウイメンズハウスとちぎ（宇都宮市 2001年8月設立）

女性の人権を守る視点から、暴力被害に悩む女性のための支援を行っています。暴力により傷ついた女性と子どもが自分の力を取り戻し、安全に新しい生活を始められるようサポートします。また、女性のための相談やカウンセリング、女性への差別や暴力のない社会を目指すための提言や啓発、DV被害者支援のための研修会開催や講師の派遣を行っています。この秋、困難な家庭環境や貧困を背景に性被害や性的搾取の被害に遭う若い女性たちの実情を広く知ってもらうため、宇都宮市で、「私たちは『買われた』展」というパネル展示による企画展を開催する予定です。

うりずん（宇都宮市 2012年3月設立）

医療に頼らないと生きていけない重い障がいを抱えた子どもと、24時間その子どもを介護している家族の当たり前の生活を支援するために、日中のお預かり（日中一時支援等）やホームヘルプ、集団保育が難しい子どもの居宅訪問型保育、お出かけイベント等を行っています。うりずんは、子ども達が友達と楽しく遊び、両親は介護から離れひと休みできる場所です。子どもにどんな障がいがあっても、子どもと家族が普通に暮らしていける社会を目指します。

宇都宮子ども劇場（宇都宮市 2001年2月設立）

宇都宮子ども劇場は「いっぱいの“すごい！”に出会う」をテーマに、子ども向けの舞台鑑賞活動や様々な体験活動の企画・運営を行っている団体です。会員全員がスタッフであり参加者として協力し合い、親子で活動しているのが特徴です。また、地域の文化拠点として、他の団体や地域の人々と協力して子育て支援事業にも取り組み「とびっきりの子ども時代」を応援しています。

チャイルドラインとちぎ（宇都宮市 2004年5月設立）

悩みを持つ子ども達の声を受けとめ、自立を助けるヘルプラインとして電話相談とオンライン相談を開設しています。2019年は年間6,017件（会話成立は1,771件）の子ども達からの電話があり、オンラインでは、263件の声を受けとめました。電話の向こうには、さまざまな子ども達の姿が見えます。子どもを一人の人間として尊重し、話を聴いていくなかで、できることを一緒に考えていきます。「自分らしく生きたい」と思う子どもの声に寄り添います。

鹿沼ファミリー劇場（鹿沼市 2001年7月設立）

文化的地域づくりと子どもの豊かな成長を目的に、子どもや大人が共に舞台鑑賞や文化・体験活動を通して、社会参画の促進と子育て支援に関する事業を行っています。また、鹿沼市の委託事業である「鹿沼市つどいの広場」「鹿沼ファミリーサポートセンター」「集団託児どりーむ」「赤ちゃん交流体験事業」の運営等を行っています。

手仕事工房そら（益子町 2010年9月設立）

そらは「障がいを持っていても地域で暮らし、働きたい」という、願いを実現するために始まりました。「そらまめ食堂」（真岡）、「そらいろカフェ」（益子）の飲食店、手作りによる工芸品の販売や農作物作り等、また「そらまめ塾」というアート活動を通しての働く場があります。みんなの個性を大切にし、その考えや思いを尊重しながら、地域社会の一員であることを自覚できるよう、たくさんの人たちとふれあい、助け合えるような活動を心掛けています。

コットンウェイ硬式野球倶楽部（真岡市 2015年6月設立）

次世代を担う青少年の健全育成と硬式野球に取り組める環境を作り、野球競技者の技術の向上や、野球を通じて地域社会に貢献できる人材の育成を目指しています。自主事業としてSLの走る街「コットンカップ」大会、中学3年生や聾学校の生徒対象の野球教室、ティーボール教室を開催、益子町少年野球教室、はが路マラソン大会走路員のサポート等や、真岡の夏祭りにも参加して地域と連携しながら活動しています。

オオタカ保護基金（宇都宮市 2002年9月設立）

ワシやタカの仲間（ワシタカ類）は、食物連鎖の頂点に位置していることから、生態系の現状を知る指標となります。しかし、開発による生息地の改変や耕作放棄による餌場の減少等で、生息状況が悪化しつつあります。そこで生態系を保全、再生しながら生物多様性豊かな社会を構築することを目的に活動しています。また、自然観察会や自然体験活動、農業体験活動を通して、里山の豊かな自然や生き物の大切さを伝える活動を行っています。

大谷石研究会（宇都宮市 2005年12月設立）

宇都宮市民にとって「大谷石の文化」が生活の中で大きな役割を担ってきたことを再認識し、地域の誇れる「宇都宮のブランド」として後世に伝えていくことを目的に活動しています。歴史と伝統に育まれた大谷石文化の振興を図ると共にまだ評価されていない大谷石建築文化の発掘や保存活動を進め、新たな大谷石文化の普及に取り組み、国内外に向けてその活動の輪を広げ、宇都宮のまちづくりに貢献する活動をすすめています。

スペシャルオリンピックス日本・栃木（宇都宮市 2010年2月設立）

知的障がいのある人達に、日常的なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技大会等を年間を通して提供し、健康の増進、余暇の享受、自立と社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。社会への知的障がい者の理解促進を図る活動を通して、様々な人々がお互いに尊重し合い、共に生きてゆく社会の実現を目指しています。

KHJとちぎベリー会（宇都宮市 2009年9月設立）

最近は引きこもりの長期化高齢化が目立ってきており、実質の引きこもり人数は年々増えてきています。引きこもり、不登校、精神障がい等を抱える本人とその家族に対し、学習会や月例会・訪問サポート・居場所作り・講演会・個別相談等に取り組み、メンタルヘルスケアにあたっています。また、引きこもり当事者やその家族が安心して集える「カフェ苺屋」を運営しています。

アディクションサポートセンターとちぎ（宇都宮市 2004年6月設立）

近年薬物事犯が増加する中で、薬物依存症者の家族の中には誰にも相談できずにひとり悩み、苦しんでいる方が多くいます。依存症者がダルク入寮や治療等によって薬物からの離脱を図る一方で、依存症者の家族にも同じ経験を持つ他の家族の方々と出会い、その体験を語り合いながら、家族自身の健全な回復を図る場所を提供し、再び元気に社会に復帰できるよう支援することを目的に活動しています。

プロジェクト宙（鹿沼市 2015年3月設立）

鹿沼市を拠点に「こどものまちミニかぬま」・学童保育・小学校長期休業中の子どもの居場所等の子育て支援事業を行う団体です。年間を通じて、子ども達の自主性、創造性を促し、生きる力を育む様々な体験事業を実施しています。「こどものまち」とは、子どもだけが自ら運営する仮想のまちで働き、まちづくりを通して社会の仕組みを学び、生きる力を育むプログラムのことです。

菊地ファミリーホーム（益子町 2014年6月設立）

生活支援の必要な家庭の子どもや家庭に恵まれない子どもの養育支援を行い、児童福祉の増進・子どもの健全育成に寄与することを目的として、小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）を行っています。お預かりしているお子さん一人ひとりが健やかに成長できるよう愛情ある養育を提供すると共に、地域社会の一員として自立できるよう支援します。

みんなだれかの仲良しの世界（真岡市 2016年1月設立）

真岡市に第1号の地域食堂（子ども食堂）の運営を目指しています。大人と関わりながら、一緒に食事をすることで、健やかに元気に育つことを願います。地域の子ども達を地域の大人が見守る、そして子どもからお年寄りまで誰もが気軽に利用できる、憩いの場になるよう活動を進めていきます。

自然史データバンクアニマnet（栃木市 2012年10月設立）

栃木市の里山で活動しています。自給率の向上を基本に、そこにある物を使い参加者の「やってみたい」を参加者と話し合い、農業体験やDIY体験等を「森カフェ」で開催（毎月第二土曜日）しています。里山の可能性・恵みを五感で感じながら非日常を日常に、家族や他者との交流も取り戻しています。新規事業（IKOU）では不登校児を基本に、農地を含む里山と古民家に居場所を作り、自己肯定感の向上と将来への夢や希望を生み出す活動をしています。

栃木おやこ劇場（栃木市 2001年9月設立）

「とびっきりの子ども時代を！」を合言葉に、豊かな人間形成期の子どもが、子ども時代にしか感じることのできない機会を持ち、また自己肯定感を持てるための環境づくりをするために「親と仲間と五感を使った体験活動」や「質の良い舞台芸術鑑賞活動」を創造的に企画・実行しています。子育てサポートとして、子育ての環境が孤立化してきている中で、身近なところに共感しあえる仲間や子育ての先輩がいる安心感を得られる取り組みも行っています。

おひさまクラブ（栃木市 2001年12月設立）

自閉症及び発達障がい児・者のサポートを親が家庭で行えるように、専門家から基本的な考え方を学ぶプログラムを実施しています。親同士が意見や情報を交換できるようにおひさまサロンを定期的に開催しています。また、講演会を開催することで、正しい理解と知識の普及や地域社会への啓発活動を行っています。

シュシュ（佐野市 2014年6月設立）

児童発達支援と放課後等デイサービスにおいて、乳幼児から青年期までの継続した支援をしています。「生まれてきてくれたことに感謝して、出会えたことに感謝して」障がいを持つ子どもが安心して育つ環境を整え、一人ひとりの可能性を伸ばす療育と共に、そのご家族が安心して生活し子育てできるように全般的なサポートをしています。これからも子どもの成長と共にサポート体制を広げていきます。

まごの手（佐野市 2005年8月設立）

ご高齢の方や障がいをお持ちの方等、様々な援助を必要とされている方に、制度外の在宅福祉サービスや病院・買い物等の移送サービスを行っています。また、みなさんが気軽に寄れる地域の居場所ふれあいハウス「たんとんとん」を開所しています。お互いに助け合う思いを大切にし、安心して暮らせる地域社会作りを目指しています。

栃木県中途失聴・難聴者協会（佐野市 2008年4月設立）

中途失聴・難聴者が、聴覚に障がいがあることで困らないようにするために、障がいの正しい理解と補聴器や人工内耳、要約筆記といったコミュニケーション方法の正しい知識を伝え、その技術の習得・普及のための活動を行っています。また、難聴者でも楽しめて知識が得られ、一般の方にも聴覚障がいへの理解を広めるため、各種イベントや学習会を開催しています。

アニマシオン（足利市 2016年2月設立）

子どもの最善の利益と発達を保障すること、子どもを産み育てることに夢と希望を持てる社会を作ることを目的に、放課後児童健全育成事業として「富田学童クラブ」と「葉鹿学童クラブ」を運営しています。放課後や長期休暇中は、子どもの自主性・社会性を育む上で重要な時間です。また異年齢集団の子ども同士の学び合いには、学校や家庭では体験できないことがたくさんあります。豊かな遊びと生活の中で、主役である子ども達の“やりたい”“知りたい”“やってみたい”気持ちを大切にしています。

フードバンクとちぎ（小山市 2013年1月設立）

社会の格差が拡大し貧困世帯が増加している中で、まだ安全に食べられるのに廃棄されてしまう食品を食品関連企業から無償で寄贈していただき、食品を必要とする人々や施設等に無償で提供するフードバンク活動を行っています。社会問題でもある食品ロスの削減を図ると共に、食品を提供することにより生活の向上や自立の手助けをすることを目的としています。

子どもの育ちを支える会さくらネット小山（小山市 2016年10月設立）

小山市から「要支援児童生活応援事業」を受託して、子どもの居場所「おひさま」において、貧困や虐待等の状況下にある子どもたちに、食事や入浴、衣服の洗濯、宿題のサポート等の支援を行っています。また、自主事業として、相談事業、学習支援、食料品、学用品等の提供、無料の食事支援、保護者を対象としたクッキング等を定期的に開催しています。さらに、今年度から、子どものSOSに対応する「一時保護事業」を開始する予定です。

ビリーブ（小山市 2018年1月設立）

貧困や虐待で支援が必要な子どもに、食事・入浴・洗濯・学習支援等を行う子どもの居場所「シリウス」を運営しています。子ども達が安全で安心できる居場所で基本的な生活習慣を身につけ、信頼できる大人との関係の中で過ごすことにより心身の傷を癒し、自己肯定感を取り戻し地域や学校でいきいきと生活できるようにするための支援を行っています。誕生会や季節の行事、長期休みの野外活動等の体験を通じ、子ども達の経験値を増やすことを大切にしています。同時に、養育や生活困窮等の保護者からの相談に応じ支援することや、地域にネットワークを構築することで、貧困や虐待の連鎖を断つことを目指しています。

4月度 理事会だより

●3月度まとめ

とちぎコープ全体の総事業高は23億1118万円で、経常剰余金は5846万円でした。
841人の新しい組合員さんをお迎えしました。

●コープデリ生活協同組合連合会第29回通常総会「会員区分理事候補者」および「代議員候補者」について確認されました。

●栃木県生協連第51回通常総会「代議員」および「役員」候補者について確認されました。

●コープデリ連合会からの借入金要請の対応について確認されました。

●キャッシュレス決済事業「ほぺたんカード」発行保証金（供託金）の増額対応について確認されました。

●2020年度コープデリ連合会「会員基本契約覚書別表」の改定について確認されました。

●2019年度区域外組合員加入者の承認について確認されました。

●2019年度末「自由脱退（みなし脱退）」処理について確認されました。

●2019年度のとちぎコープ内部統制の整備状況について報告されました。

●理事協議会報告

今後の理事活動の見直しについて協議をすすめています。

●栃木県生協連報告

- 2019年度第4回定例理事会を開催しました。
- 2/28生協連創設50周年記念講演会「子どもの学習権と大人の責任/講師：元文科事務次官・前川喜平氏」を開催しました。
- 栃木県消費生活安定対策審議会に出席しました。
- とちぎ食の安全ネットワーク世話人会学習会「除草剤グリホサートの安全と安心の乖離」を開催しました。
- COVID-19に関して、会員の対策状況と今後の対応について対策会議を行いました。

3月度の経営状況について

●3月度（単月）

	実　績
総事業高	23億1118万円
事業総剰余金	5億7816万円
事業経費合計	5億2878万円
経常剰余金	5846万円
組合員数	26万687人

●2019年度累計（4月度～3月度）

実　績
275億7299万円
67億8183万円
64億3178万円
4億7272万円
平均出資金 2万9591円

●商品検査レポート　3月度の商品検査件数　（毎月下記の検査を実施しています。）

検査種類	微生物や食品中に残留する化学物質等の検査										食品の品質を確認する検査			食品の表示を確認する検査			調査		合計
検査の項目	微生物検査	残留農薬	動物用医薬品	食品添加物	硝酸濃度	汚染物質等	カビ毒	ヒスタミン	放射性物質	遺伝子（微生物）	官能検査	品温検査	品質	特定原材料	栄養成分	肉種・品種・産地判別	お申し出品検査（左記以外）	施設衛生検査	
3月度検査数 品目数	1,562	70	3	31	0	0	8	39	128	12	0	24	83	31	91	6	22	106	2,216
2019年度検査品目累計	19,649	884	192	201	0	83	146	496	1,981	148	0	306	1,154	492	825	135	73	4,286	31,051

●発行／とちぎコープ生活協同組合　●電話／028-634-5117　●所在地／〒321-0195 栃木県宇都宮市川田町858
●編集／かわら版編集委員会　●ホームページアドレス／https://tochigi.coopnet.or.jp/
VEGETABLE OIL INK 植物油インキを使用しています。